

政策評価シート(中期基本計画期間)

基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保
背景と現状	<p>「長寿の里」、「子育て・子育ての町」として、子どもから高齢者まで、誰もが、豊かな自然環境と生活環境の中で、健康で安心して暮らすことができ、さらに、住環境、子育て・子育て環境、教育環境を充実することにより、「生活の質」の向上を図ります。</p> <p>そのため、町民の知恵と努力がまちづくりに活かされるとともに、町民同士の協力と支え合いにより、地域コミュニティが息づくまちづくりを進めます。</p> <p>また、「生活の質」を向上させることにより、子育て世代を中心に定住人口の確保に努めます。</p>

取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H28	H29	H30	
1	子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	<p>子どもの健やかな成長と安心して子育てができる体制の実現のため、子育て世代包括支援センターを設置し、健康診査や健康相談・訪問指導等、妊娠、出産から、育児期を通じた切れ目のない支援の充実を図ります。</p> <p>また、食育の推進や学童期・思春期における保健対策や小児医療費の助成等により、子育てしやすい環境整備を行います。</p> <p>さらに、コンパクトな町ならではの特徴を活かし、地域ぐるみで子育て支援体制を構築することで、すべての家庭が地域で安心して子育てできる環境整備を図ります。</p> <p>また、保育の質の向上と量の確保を図るとともに、子育てに関する講座の開催や相談を通じて、保護者がともに育ち育て合う環境づくりに取り組みます。</p>	B	B		
2	特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	<p>児童生徒の確かな学力とたくましく生きるための体力の向上を柱に、子どもたちの生きる力を育むため、特色ある学校づくりによる教育内容の充実と、地域活動への参加等の体験活動を通じた地域社会との連携を推進します。</p> <p>また、すべての児童生徒が安心して学べる教育環境をさらに充実させるため、児童生徒一人ひとりの成長に寄り添ったきめ細かな支援を行うとともに、将来を見据えた学校教育、学校施設のあり方について検討を行います。</p>	A	A		
3	誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり	<p>高齢化の進展に伴い、高齢者の就労や活躍の場づくり、社会参加に向けた活動の支援について推進する必要があります。</p> <p>高齢者が地域の中でいきいきと暮らせる生活環境づくりを進めるとともに、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築し、推進を図ります。</p> <p>また、子どもや高齢者、障がい者等、誰もがいくつになっても地域で健やかに自立した生活を送ることができるよう、気軽に運動ができる環境づくりを進めるとともに、民間の力を活かした健康・体力づくりの機会をつくること等により、未病に対する取り組みを推進し、町民の健康・体力増進を図ります。</p>	B	A		

4	「にのみやLife」の提案と発信	<p>人口の減少傾向を抑制するために、「二宮町に住み続けたい」、「二宮町に戻ってきたい」、「二宮町に住んでみたい」と思ってもらえるようなライフスタイル「にのみやLife」として確立し、そのプロモーション戦略を推進することで、今までとは違う新たな「人の流れ」を創出します。</p> <p>「にのみやLife」を確立するためには、新たな魅力を創出する、または既存の魅力を活かしながら更に魅力を高めることに取り組み、「住んで良かった」と実感してもらえよう、様々な世代の生活スタイル・ライフステージに応じた定住支援施策や移住支援施策の展開を図ります。</p>	B	B	
5	地域コミュニティの醸成支援	<p>少子高齢化の進展・働き方の変化等から、地域活動の人材が不足し、地域コミュニティの維持が難しくなっている地域が出てきています。</p> <p>そのため、子育て世代や元気な高齢者等、全ての世代がコミュニティ活動に参加しやすく、安全・安心に住み続けられるコミュニティの醸成を支援します。</p>	B	A	

町民満足度調査の結果

H30加重平均値 重要度3.97／満足度2.97

設問内容	重要度		満足度		備考
	前回調査(H27)	H30	前回調査(H27)	H30	
1-1 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	4.17	4.12	3.17	3.02	
1 健康づくり支援の推進	3.84	3.91	3.11	3.16	
2 母子保健の充実	4.36	4.29	3.36	3.06	
3 教育・保育環境の充実		4.29		2.83	
4 子育て中の親への支援の充実		4.11		3.05	
5 子育てコミュニティづくりの推進	4.18	3.95	3.11	3.04	
6 学童保育所の充実	4.28	4.14	3.11	2.99	
1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	4.32	4.03	3.10	2.96	
1 教育内容の向上	4.25	4.11	3.01	2.88	
2 支援を必要とする児童生徒への対応の充実		4.02		2.96	
3 教育相談の充実		3.93		2.95	
4 安全・安心な教育施設の整備	4.39	4.21	3.19	2.93	
5 地域と連動した教育活動の充実		3.89		3.07	
1-3 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり	4.18	4.18	3.11	2.99	
1 地域福祉の充実	4.03	4.13	3.02	2.99	
2 地域包括ケアシステムの構築		4.35		2.89	
3 生きがいづくりと社会参加の促進	4.12	3.99	3.14	3.01	
4 健康づくりと介護予防の促進		4.10		3.05	

5	充実した介護サービスの提供	4.49	4.36	3.2	2.89	
6	健康づくり支援の推進	3.84	3.91	3.11	3.16	
7	地域医療の充実	4.42	4.43	3.08	2.97	
	1-4 「にのみやLife」の提案と発信	4.15	4.06	3.18	3.00	
1	健康づくり支援の推進	3.84	3.91	3.11	3.16	
2	母子保健の充実	4.36	4.29	3.36	3.06	
3	教育・保育環境の充実		4.29		2.83	
4	子育て中の親への支援の充実		4.11		3.05	
5	子育てコミュニティづくりの推進	4.18	3.95	3.11	3.04	
6	学童保育所の充実	4.28	4.14	3.11	2.99	
7	空家を活用した定住促進のための住まいの確保		4.01		2.72	
8	広報・広聴の充実	4.09	3.81	3.20	3.18	
	1-5 地域コミュニティの醸成支援	3.87	3.72	3.08	3.04	
1	官民協働によるまちづくり活動の推進		3.78		3.04	
2	コミュニティ活動支援	3.87	3.65	3.08	3.03	
【その他町民意見(日頃からの町民の反応や問い合わせについて)】						

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		B
	説明	<p>重点施策の評価状況(平成29年度)は、「A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持」が3施策、「B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある」が2施策あり、前年度と比較し、2施策で評価を上げる結果となった。</p> <p>町民を対象とした町民満足度調査の重要度を前回値と比較したところ、「健康づくり支援の推進」「地域福祉の充実」「地域医療の充実」の項目で上昇しており、特に「地域福祉の充実」「地域医療の充実」は加重平均値を上回っている。</p> <p>満足度については、「健康づくり支援の推進」以外のすべての項目で下降している。</p> <p>また、重要度と満足度を比較すると、「重要度」が高いにもかかわらず、「満足度」が低い結果となっているのは、「教育・保育環境の充実」「教育内容の向上」「支援を必要とする児童生徒への対応の充実」「安全・安心な教育施設の整備」「地域包括ケアシステムの構築」「充実した介護サービスの提供」「空家を活用した定住促進のための住まいの確保」となっているため、優先的な改善が求められる。</p> <p>今後、少子高齢化が進展する中、住み慣れた豊かな自然と生活環境の中で、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことが出来るよう、妊娠・出産・子育ての各段階の切れ目のない支援や、子どもの個性や発達状況に応じたきめ細やかな学校教育の充実を図るとともに、多様性を尊重し合える地域の中で、支え合いながら誰もが健やかに暮らせる環境づくりに努める。また、それらの生活を支えるために、欠かすことのできない重要な役割として、誰もが参加しやすいコミュニティの形成を促進し、様々な場面での多様な活動へとつなげていく。自分らしく生活できる「にのみやLife」の実現を目指し、様々な取り組みにより、町民一人ひとりの生活の質を維持・向上し、町の魅力ある暮らしを強く発信していくことで、定住人口の確保に結びつける。</p>	

外部評価[まちづくり評価委員会]

- A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する
 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する
 C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある
 D: 政策全体を見直す必要がある

B

意見等

生活の質の向上と定住人口の確保について、地域や町民との連携や情報発信など具体的な取り組みとその成果については評価できる部分がある一方で、対話の促進など一部を改善し、さらに推進する必要がある。

○ 年齢や分野で分かれてしまっている施策については、包括する部署を設置するなど、一貫性を確保し、情報の共有やニーズに即した支援が求められる。そのためにも現場に向いて町民の声を積極的に聞き取って施策を実施する体制づくりが望ましい。
【重点的方針 施策1-1、1-3】

○ 教育分野においては地域と連携して取り組む町立小中学校のコミュニティ・スクール化が実現化するなど、基本構想に定める3つの理念にある、地域と連携した行政運営は評価できる。
【重点的方針 施策1-2】

○ 地域や町民はSNSなどを活用し、町の取り組みを幅広く発信しており、これからは町も幅広い媒体を活用し情報発信に取り組む必要がある。

【重点的方針 施策1-4】

○ 情報発信の分野においても、町だけでなく地域や町民の力を借りた幅広い情報発信などにより、シティプロモーションの成果に結びついている。

【重点的方針 施策1-4】

○ 地域コミュニティの醸成支援については、防災や通いの場といった取り組みにおいて、町が力を入れていることがわかるほか、待機児童対策などの取り組みにおいても評価できる点が複数ある。

【重点的方針 施策1-5】

この政策は、それぞれの施策が緊密に関係しており、地域や町民、町が密接に連携することが特に求められる分野であるため、後期基本計画においても連携を継続、発展させていくことが大切である。

町の最終方針[庁内評価委員会]

- A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する
 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する
 C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある
 D: 政策全体を見直す必要がある

B

方向性

基本構想「生活の質の向上と定住人口の確保」については、外部評価において取り組みや成果について評価された施策もあるため、これまでの取り組みをベースに、施策を一部改善し、次の通り推進する。

少子高齢化が進展する中、住み慣れた豊かな自然と生活環境の中で、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことが出来るよう、情報の共有や的確なニーズ把握による事業の実施を強化する。そのため、地域や町民、町が密接に連携する必要性を理解しつつ、町民の声を聞き取り、町の取り組みを説明するため、現場に向く姿勢で事業を展開する。

重点的方針1-1及び1-3においては、年齢や分野で相談や支援といった施策が途切れることがないよう、一貫性を確保する仕組みを構築する。

重点的方針1-2においては、町立小中学校のコミュニティ・スクール化など、引き続き地域と連携した行政運営を意識しつつ、二宮らしい教育環境の整備を推進する。

重点的方針1-4においては、地域や町民の支援によるシティプロモーション事業が成果を出しているため、引き続き連携による事業展開をするとともに、町として幅広い媒体の活用など、情報発信力を強化していく。

重点的方針1-5においては、防災訓練や通いの場といった地域と連携した取り組みを継続するほか、人口減少社会においても地域コミュニティが継続、活性化できるよう、地域の在り方の検討を進めていく。